

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社 オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
所在地	愛媛県伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と海に囲まれた自然環境の中で穏やかにゆったりとした生活を送って頂けるよう支援しています。ラジオ体操・リハビリ体操・うた・計算(脳トレ)等を実施したりサービス計画に基づき個々にリハビリを行い、家事や炊事・掃除とできることをやって頂き、利用者一人一人が役割が持てるよう支援を行っています。ホーム内には、利用者様が作成した季節の貼り絵やクラフトを飾り、四季を感じていただけるようになっています。地域の方々との交流も積極的に行い、小学校の運動会・地域の祭りや文化祭などに参加をさせて頂いています。また、毎年年末には餅つき大会を開催し、ご家族・地域の方・ボランティアの方々をお招きしています。職員は、内部・外部の研修に参加しケアの向上を図り、様々な資格の獲得に挑戦しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊予灘を望む高台に立つ事業所は、自然に囲まれ、テラスからは美しい夕日を楽しむことができる。敷地内の広大な畑では、専任の職員が利用者と共に野菜などを栽培しており、収穫した新鮮な野菜が食卓にのぼっている。職員の心得として掲げた「いつもにこにこ明るい笑顔でぽかぽか家族」には、職員が利用者のことを自分の親を世話するよう努め、利用者一人ひとりが力を発揮しながら笑顔で過ごしてほしいという思いが込められている。開設当初から地域に開かれ、頼られる事業所を目指して積極的に地域交流に努めており、小学校の運動会へ参加したり、公民館の文化祭に手作りの作品を出展したりするなど、地域行事を通して地元住民との交流が継続してできるよう支援している。また、事業所には専任の看護師が複数名おり、協力医と24時間医療体制を整え、日常的な健康管理を行うと共に、利用者や家族の要望に応じて看取り支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
(ユニット名)	なのはな
記入者(管理者)	
氏名	徳田 茂美
評価完了日	H 27 年 1 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設理念の他に、職員の心得「いつも明るい笑顔でぽかぽか家族」を掲げ、職員と利用者さんが一つの家族として敬い・支え合って、毎日笑顔で生活出来るよう支援しています。また、スタッフ会を利用し理念について話合う機会を設けています。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した理念に沿ったケアに取り組んでいる。理念には利用者を一つの大きな家族と考え、一人ひとりの力を発揮しながら、笑顔で過ごしてほしいという思いが込められている。理念は毎月の職員会で振り返り、職員への意識づけをしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小学校の運動会や、地元の行事へ参加させて頂き、地域の方々との交流に努めています。毎年文化祭には、利用者さんが作成した作品を展示させて頂いています。週に何度か散歩を兼ねて、買物に行くなどし地域の方と触れ合えるようにしています。</p> <p>(外部評価) 地元の利用者が多く、町民運動会や蛍祭り、地方祭など地域行事に積極的に参加している。旧双海町にある3か所の小学校の運動会に参加し、小学生との交流を楽しんでいる。また、公民館の文化祭に手作りの七夕飾りを出展して地元住民との交流を深めている。さらに、琴や尺八、踊り、手品、ハーモニカ等のボランティアの訪問があり、利用者を楽しませてくれている。事業所ですいた餅を近所に配ったところお礼の電話があるなど、近所づきあいができるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々が気軽にホームを訪ねて頂ける環境作りに努めています。ホームでの行事にご招待し、実際に見て頂ける機会を設けていますが、理解を深める活動としてはまだまだ不十分である。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度ホームの活動報告・認知症に関する勉強会・家族を交えての避難訓練や食事会などを様々な議題で開催しています。ご家族との意見交換会も開催しそこで出た意見等は一つ一つ検討し運営に活かしています。出来る限り多数の職員が運営推進会議に関われるようにしています。</p> <p>(外部評価) 会議は2か月に1回、利用者や家族、民生委員、市担当者の参加を得て開催している。会議の案内は家族全員に送付し、会議録を返して家族の理解を得られるよう努めている。時々の課題をテーマとして挙げたり、行事と一緒に開催したり、避難訓練に参加者も一緒に参加するなどの工夫をしている。また、会議の中で家族から「脳トレーニングを実施して欲しい」という要望が出され、問題集を購入しトレーニングをしている。</p>	運営推進会議の参加メンバーが固定化しているため、さらに幅広い参加者を募り、事業所の理解を広め、協力関係を構築できることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議や行事等にご出席頂き、アドバイスや意見等を伺うようにしています。市からの介護相談員の受け入れやケアマネ連絡会などにも参加させてもらっています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には毎回市担当者が参加し、情報交換を行うなど相談しやすい関係を築いている。成年後見制度の活用が必要となったため、地域包括支援センターに相談し連携して手続きをした利用者もいる。また、地域包括支援センターが2か月に1回開催するケアマネ連絡会に参加し情報交換をしている。毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話しを聞いてくれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在対象者は無し。職員には内部研修や外部の研修等に参加を促し、身体拘束をしないケアの重要性を学んでもらうよう取り組んでいます。玄関は夜間以外は施錠せず自由に出入りが出来るようにし、職員は見守りの強化に努めています。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束廃止宣言」を掲げてマニュアルを作成しており、職員は拘束をしないケアに努めている。ベッド上で立ち上がり転倒骨折して入院した利用者に対し、退院時ベッド柵を使用することを検討したが、床に布団を敷いて転倒を予防できるよう工夫し、這って移動することで転倒を予防できている。年間研修計画の中にも身体拘束防止等のテーマを取り入れ、利用者のことを自分の親に置き換えて考えるよう職員を教育している。また、言葉による拘束についても注意している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士が注意しあい、正しいケアが行われるよう努めている。研修等にも参加しケアの質の向上に努め、誤解を招くようなケアが無いように取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で司法書士の方をお招きし勉強会を開催したりして学ぶ機会を設けています。今年利用1名が地域包括支援センターの方の協力を得て、成年後見人制度を利用する事となりました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとって説明をし納得していただいた上で契約しています。また、改定時には前もって文書等で報告・説明を行い同意を得るようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を利用しご家族からの意見・要望を伺い、また面会時にも声をかけるようにしています。ご家族からの意見・要望はその都度話し合い運営にいかしています。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、利用者の様子を伝えると共に、意見や要望を聞くように努めている。事業所への訪問が難しい家族には、「ぽかぽか通信」に手紙を添えて送付し報告している。また、アンケートを送付して、意見を出してもらえよう工夫をしている。利用者から日々の生活の中で意見や要望が出されることもあり、「県立美術館に行きたい」という要望に対して、家族の協力を得て外出を予定している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員と一緒に現場で業務しながら、職員とのコミュニケーションを図るよう強めています。また、代表者を交えた職員会を開催し意見や提案を聞ける機会を作っています。	
			(外部評価) 管理者は職員と一緒に日常業務を行う中で、職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。職員会議は代表者も参加して開催されるため、職員は直接意見を伝えることもできる。また、法人では研修参加や資格取得も奨励しており、研修計画を立て、職員の希望を聞いて参加ができるよう環境を整えている。昨年取り組まれた相互研修報告では、他事業所との比較に基づき様々な提案がなされ、運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格を獲得した際には、お祝い金の支給や職能給として給料の見直し改善を実施し、職員がやりがいをもって働きながら学べる環境づくりに努めています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を誰もが閲覧できるようにしており、希望に応じて個々に受講している。研修報告書を提出し全職員に伝達できるよう取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の主催する相互研修に参加し他の事業所との交流を図っている。参加した職員は研修内容を全職員に報告しサービスに活かしています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所の前にご本人とご家族と面談を実施し、困っている事や本人の思いや不安を汲み取れるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談をさせて頂き、ご家族の希望・不安に思う事 をじっくり聞き取るようにしています。また、入居後も機 会を見つけ声掛けを行うように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入居に至るまでの生活の状況を聞き取り、ご本人ご家族が 必要としている事を見極め、それに合ったサービスが提供 出来るよう努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者から教わることは多く、人生の先輩である尊敬の念 を忘れず、職員は利用者がお互いを助け合いながら生活出 来るよう見守り支援しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診や外出などの協力をして頂き、利用者が ご家族と触れ合える機会を作り、利用者の身体状況や日常 生活の様子を報告し、共に支えられるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用者は地元の方が多く地域の行事に参加すると、顔見知 りの方と再会され、昔話をされたりしている。施設周辺を 散歩していると地域の皆さんが声を掛けて下さり、「この 辺の人は皆知り合いよ」と喜ばれる利用者さんもいらっ しゃいます。 (外部評価) 入居時にセンター方式を活用して、馴染みの関係を聞いて 把握し、職員間で共有している。美容院など行き慣れた店 に行くことができるよう家族に協力を依頼している。地元 の町民運動会や敬老会、文化祭に出かけ、知人と出会う よう支援している。また、利用者同士が仲良くなり、互い の居室を行き来したり、定期的に訪問のある介護相談員と も新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれが出来る事を役割として、お互い協力しながら助け合い生活が送れるよう支援しています。人間関係に配慮し、席替えを行ったり、職員が間に入る事でトラブルを防いでいます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院による退所者に対しては、電話で様子を伺ったり、場合によっては再入所の検討などを行っています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 契約前の面談時や入所後にもご本人とゆっくりと話せる時間を作っています。意思疎通の困難な方は、ご家族に話をお聞きしています。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から情報を収集し、生活歴や生活環境の把握に努めている。入居後も昼食後の時間やお茶の時間など、何気ない昔話の中から思いをくみ取るよう努めている。その際、利用者が思いを言い表しやすいよう声かけを工夫している。意向の把握が困難な利用者には、家族に聞いて理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談時にご本人・ご家族から話を聞き、それまで利用していた事業所からの情報の提供をお願いして、生活歴や生活環境等の把握に努めています。また、入所後も、ご本人と話が出来る時間を作っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんそれぞれの生活パターンを把握し、決して無理強いすることなく自分のペースで毎日を過ごして頂けるよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の実施状況を各担当者が毎月チェックし、状態の変化や気づきを記入し提出している。3ヶ月ごとのモニタリングや担当者会議にて問題点を話し合い、介護計画を作成しています。状態に変化があった場合には、その都度、話し合いをし見直しをしています。 (外部評価) 利用者や家族の意向を確認し、計画作成担当者が職員と話し合って介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族の面会時に書面を見せながら説明し承諾を得ている。利用者毎の担当者を決めて、毎月モニタリングを行い、6か月毎に定期的に介護計画を見直すほか、状態の変化があった場合にはその都度見直しをしている。また、サービス実施記録には介護計画実施状況が分かりやすく記録され、モニタリングに活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は今日の出来事と題し一日の様子を分かり易く記入し、別紙にてバイタル・食事量・水分量・排泄の状況が一目で分かるように記録しています。職員が出勤時には必ず目を通し情報が共有できるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や定期受診は、ご家族の都合を考慮し難しい場合にはホームの職員が対応している。また医師への詳しい状態報告が必要な場合には、職員がご家族と同行するようにしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月の介護相談員の訪問や美容師のボランティアによる散髪やご家族を招いての歌や舞踊の慰問公演等を開催しています。地元の職員が多くいる為、地域での行事の情報が得られるようになっていきます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医の月2回の往診と必要時に歯科医の往診を依頼して います、外科等の定期的な外科他の受診は、ご家族に協力 を頂きお願いしています。急変時には、協力医に報告し看 護師が付き添い、受診を行い適切な医療が受けられるよう 支援しています。 (外部評価) 入居前に利用者や家族に説明し、協力医をかかりつけ医と している。看護師2名(内1名は非常勤)が職員として勤 務しており、日常の健康管理を行っている。月2回協力医 の訪問診療があるほか、急変時にも24時間体制で対応でき る連携が取れている。また、歯科医の往診治療を受けるこ とも可能である。専門医の受診が必要な場合には家族が付 き添うことになっているが、困難な場合には看護師が同行 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 身体の異常や急変時には、看護師に報告・相談し指示を貰 うようにしています。ホーム看護師は24時間オンコール 体制をとっており、夜間の対応も可能となっています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、医療機関に情報を提供し、電話や面会など で状況を確認して家族と連絡を取りながら、早期退院向け て取り組んでいます。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重症化や終末期については契約時に説明し、看取りを希望 されなくなった場合には、ご本人・ご家族の意向を確認し 協力医の指示を仰ぎ看護師を中心に行っている。開設以来 2件の看取りを実施したが、ホームで出来る事に限界があ り戸惑いもあります。 (外部評価) 「看取りに関する基本指針」を作成し、利用者や家族の要 望に応じて看取りを行っていく方針であり、入居時に意向 を確認している。今までに2名の看取りを経験しており、 管理者は利用者の状態によっては、必ずしも事業所での看 取りが最善ではないと感じる場合もあった。看取りは協力 医や看護師、家族、職員など関係者が話し合い、役割を分 担して取り組んでいる。また、看取り実施後には職員アン ケートを取って話し合い、管理者は今後の看取りに生かそ うとしている。	看取りの経験や振り返りが、職員の自信に繋がってい くよう、職員や関係者の間で共有すると共に、勉強会 を重ねて実施するなどさらなる知識の向上や技術を習 得していくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、急変時には、看護師と連携し、素早く対応が出来るよう努めており、救命救急士による救命処置訓練を実施するなどしてます。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防署に協力いただき様々な想定での避難訓練を行っています。ご家族にも参加を頂き、意見等が伺える機会を設けています。また職員が地域の消防団に所属し連携を図っています。非常袋・飲料水・食料等の備蓄も準備しており、8月の大型台風の時には地域事務所の協力を得て、職員連絡網を活用し、自主避難を行いました。 (外部評価) 年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。内1回は消防署の立ち会いがある。昨年の訓練では事業所が土砂災害危険区域に指定されていることが分かり、避難経路や避難方法を確認している。また、台風が襲来した際は実際に利用者と一緒に避難場所へ自主避難の経験があり、ピストン輸送で利用者を避難させたが、課題も明確になっている。事業所のある地区の消防団員をしている職員もおり、地区の防災訓練を事業所で実施するなど、協力関係を築いている。また、福祉避難所としての申し出を民生委員に伝えている。	事業所では土砂災害に備えるという新たな課題に直面し、台風の際には実際に利用者と一緒に避難場所へ避難を経験している。その際明らかになった問題点を行政など専門家にアドバイスをもらいながら職員間で検討し、事前の対策や速やかな避難ができるよう、訓練を重ねて実施したり安全に非難できる方法を見直したりすることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けや口調に気を付けて威圧的にならないように利用者が気持ちよく行動を起こして頂ける声掛けに努めています。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。「居室に入る際には必ずノックをする。トイレ介助時は、戸を閉めて行う。入浴介助は適宜同性介助で行う。」などの配慮をしている。利用者と呼ぶ時は、親しみを込めて名前と呼ぶ場合もあるが、過度な馴れ合いにならないよう気をつけている。また、利用者自身がしたいと思うことは、できないことでも頭から否定せず、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人がどうしたいのか？希望等を引き出せるような声かけに努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の日課に添って生活されているが、その日の状態やご本人のペースにあわせ、ご本人の思うように過ごせるよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には、洋服をご本人に選んで頂いたり、お化粧品をして出かけています。マニキュアを塗って差し上げると皆さん大変喜ばれます。2・3ヶ月おきに、ボランティアの美容師さんが訪問して下さっています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日に使う食材を切って頂いたり、盛り付けなどをお願いしています。可能な方はご自分で配膳・下膳・後片付けをされており、車椅子の方は、洗った食器やお盆を拭いたり、それぞれが出来る事を役割として行って頂いています。 (外部評価) 専任の調理師が献立を作成し調理している。野菜の多くは事業所の畑で取れた新鮮な野菜を使用し、その他の食材は週2回利用者と一緒にスーパーに買い物に行っている。利用者は食材を切ったり食器を洗ったりするなど、できることを手伝っている。誕生日には一人ひとりに合わせた好みのメニューを料理しておやつも特別に注文し、利用者に喜ばれている。季節毎に特別メニューをつくったり、そうめん流しをしたりするなど、食事を楽めるよう支援している。また、ドライブなど遠出先で外食をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は個々の状態に合わせた量・形態で提供し、水分チェック表にて1日の水分摂取量が把握できるようにしています。お茶が苦手な方は、ジュースやコーヒーなどを提供し摂取して頂いています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の日課として口腔ケアの声掛けを行い、実施しています。また、義歯の方は就寝時に洗浄して頂いています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表で排泄を管理し、定期的な声掛け誘導を行っています。長期入院によりオムツでの排泄となっていた方が、現在は失禁なくトイレでの排泄が可能になった例もあります。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。歩行が困難な場合でも立位がとれる利用者には、トイレで排泄できるよう介助している。入院中にオムツを使用していた利用者に対し、職員が誘導することで、トイレで排泄ができるようになったケースもある。夜間のみオムツを使用している利用者が若干名いるが、日中は紙パンツで過ごせるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく薬に頼らず、日中、身体を動かす運動を取り入れたり、繊維の多い食材を使った料理の提供や水分摂取に注意しながら自然排便が行えるように努めています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日の設定はあるがその日の状態に合わせて、日を変更したりしています。1人でゆっくりと、または気の合う人同士など利用者の希望に沿いながら支援しています。また同性介助にも気を付けています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夏季は週3回、冬季は週2回入浴できるよう支援している。利用者の状態に合わせて、適切な福祉用具を活用して湯船に浸かれるよう介助している。それが困難な利用者には、足浴をしながらシャワー浴をして温まれるよう工夫している。仲の良い利用者同士と一緒に入浴する場合もある。入浴を嫌う利用者には、時間や日を変えて入浴できるよう支援している。また、利用者の希望により、同性介助の対応もしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その日の状態や気分に合わせて、自由に居室等で休んで頂けるようにしています。一人の居室に何人かの利用者が集まり、楽しそうに話をされている事もあります。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬の無いよう職員間で確認しています。お薬の情報は利用者個人別にファイルしており、皆が確認できるようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 炊事・洗濯・掃除等の利用者それぞれが得意としている事を把握し、役割として行って頂いています。外出の好きな方には買い物へ、読書の好きな方は、居室でゆっくり小説や週刊誌を読んで頂いたりしています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 週に2回買い物へ行ったり、初詣から始まり、雛飾り見学・ホテル見学・ソーメン流し・花火見学・イルミネーション見学などその時期に合わせた場所への外出の機会を作り、季節を感じて頂いています。ホームでの対応が難しい場合にはご家族に協力をお願いしています。 (外部評価) 初詣や桜、菜の花、菊など季節毎の花を見に出かけるなど、毎月1回は遠出できるよう支援している。歩行が困難な利用者も、車いすのまま利用できる福祉車両を活用して外出行事を楽しんでいる。松山へ椿まつりに出かけたり、昨年はポップサーカスの見物に出かけている。その他、つくし採りやそうめん流し、蛍祭り、広田ふるさとフェスタ等外出の機会を多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 何名かの利用者は少額の金額を本人が管理しています。買い物に出掛けた時に、必要な物が購入できるよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 状況に応じて電話や手紙でのやり取りが出来るよう支援しています。意思疎通の難しい方には、ホームからご家族に連絡し、面会をお願いしたりしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングからは外の景色が見え、天気や季節感が味わえるようになっており、窓から見える夕日はとてもきれいで見事である。ホーム内には利用者が作成したクラフトを貼ったり、外出時の写真等を貼っています。 (外部評価) 共用空間にはオープンキッチンと丸いダイニングテーブル、掘りごたつのある畳の間がある。畳の間は、両ユニットで共有することができ、舞台としても活用されている。壁には、利用者と共に作成した季節毎のクラフト作品が飾られ、リビングに繋がるテラスからは、眼下に伊予灘を展望することができ、沈む夕日の眺めは絶景である。崖下には事業所の専任職員が耕作する広い畑があり、季節毎の野菜を利用者と共に栽培している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下にソファを置き、歩行訓練の合間にちょっと休憩したり、リビングでは円卓を囲みみんなの顔が見えるようにしています。各自が自由に好きな所でくつろげるようになっているます	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのあるものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスやお布団などを、居室に置いて頂いたり、仏壇なども持参して頂いています。また、利用者が毎月作成するカレンダーを貼ったり、貼り絵を飾ったりされています。ご家族とホーム行った米寿のお祝いの家族写真を飾っている方もいらっしゃいます。 (外部評価) 居室はベッド、テレビ、いす、オイルヒーターが備え付けられている。利用者がそれぞれ使い慣れた家具を持ち込んで配置し、個性的な空間となっている。また、ひ孫の成長過程がわかる家族カレンダーや利用者全員で作成した作品を飾るなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子利用者や歩行器使用者が多いため、廊下の幅を広く設けており、利用者同士の接触の無いよう安全を図っています。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社 オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
所在地	愛媛県伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と海に囲まれた自然環境の中で穏やかにゆったりとした生活を送って頂けるよう支援しています。ラジオ体操・リハビリ体操・うた・計算(脳トレ)等を実施したりサービス計画に基づき個々にリハビリを行い、家事や炊事・掃除とできることをやって頂き、利用者一人一人が役割が持てるよう支援を行っています。ホーム内には、利用者様が作成した季節の貼り絵やクラフトを飾り、四季を感じていただけるようになっています。地域の方々との交流も積極的に行い、小学校の運動会・地域の祭りや文化祭などに参加をさせて頂いています。また、毎年年末には餅つき大会を開催し、ご家族・地域の方・ボランティアの方々をお招きしています。職員は、内部・外部の研修に参加しケアの向上を図り、様々な資格の獲得に挑戦しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊予灘を望む高台に立つ事業所は、自然に囲まれ、テラスからは美しい夕日を楽しむことができる。敷地内の広大な畑では、専任の職員が利用者と共に野菜などを栽培しており、収穫した新鮮な野菜が食卓にのぼっている。職員の心得として掲げた「いつもにこにこ明るい笑顔でぽかぽか家族」には、職員が利用者のことを自分の親を世話するよう努め、利用者一人ひとりが力を発揮しながら笑顔で過ごしてほしいという思いが込められている。開設当初から地域に開かれ、頼られる事業所を目指して積極的に地域交流に努めており、小学校の運動会へ参加したり、公民館の文化祭に手作りの作品を出展したりするなど、地域行事を通して地元住民との交流が継続してできるよう支援している。また、事業所には専任の看護師が複数名おり、協力医と24時間医療体制を整え、日常的な健康管理を行うと共に、利用者や家族の要望に応じて看取り支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 徳田 茂美

評価完了日

H 27 年 1 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設理念の他に、職員の心得「いつも明るい笑顔でぽかぽか家族」を掲げ、職員と利用者さんが一つの家族として敬い・支え合って、毎日笑顔で生活出来るよう支援しています。また、スタッフ会を利用し理念について話合う機会を設けています。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した理念に沿ったケアに取り組んでいる。理念には利用者を一つの大きな家族と考え、一人ひとりの力を発揮しながら、笑顔で過ごしてほしいという思いが込められている。理念は毎月の職員会で振り返り、職員への意識づけをしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小学校の運動会や、地元の行事へ参加させて頂き、地域の方々との交流に努めています。毎年文化祭には、利用者さんが作成した作品を展示させて頂いています。週に何度か散歩を兼ねて、買物に行くなどし地域の方と触れ合えるようにしています。</p> <p>(外部評価) 地元の利用者が多く、町民運動会や蛍祭り、地方祭など地域行事に積極的に参加している。旧双海町にある3か所の小学校の運動会に参加し、小学生との交流を楽しんでいる。また、公民館の文化祭に手作りの七夕飾りを出展して地元住民との交流を深めている。さらに、琴や尺八、踊り、手品、ハーモニカ等のボランティアの訪問があり、利用者を楽しませてくれている。事業所ですいた餅を近所に配ったところお礼の電話があるなど、近所づきあいができるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々が気軽にホームを訪ねて頂ける環境作りに努めています。ホームでの行事にご招待し、実際に見て頂ける機会を設けていますが、理解を深める活動としてはまだまだ不十分である。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度ホームの活動報告・認知症に関する勉強会・家族を交えての避難訓練や食事会などを様々な議題で開催しています。ご家族との意見交換会も開催しそこで出た意見等は一つ一つ検討し運営に活かしています。出来る限り多数の職員が運営推進会議に関われるようにしています。</p> <p>(外部評価) 会議は2か月に1回、利用者や家族、民生委員、市担当者の参加を得て開催している。会議の案内は家族全員に送付し、会議録を返して家族の理解を得られるよう努めている。時々の課題をテーマとして挙げたり、行事と一緒に開催したり、避難訓練に参加者も一緒に参加するなどの工夫をしている。また、会議の中で家族から「脳トレーニングを実施して欲しい」という要望が出され、問題集を購入しトレーニングをしている。</p>	運営推進会議の参加メンバーが固定化しているため、さらに幅広い参加者を募り、事業所の理解を広め、協力関係を構築できることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議や行事等にご出席頂き、アドバイスや意見等を伺うようにしています。市からの介護相談員の受け入れやケアマネ連絡会などにも参加させてもらっています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には毎回市担当者が参加し、情報交換を行うなど相談しやすい関係を築いている。成年後見制度の活用が必要となったため、地域包括支援センターに相談し連携して手続きをした利用者もいる。また、地域包括支援センターが2か月に1回開催するケアマネ連絡会に参加し情報交換をしている。毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話しを聞いてくれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在対象者は無し。職員には内部研修や外部の研修等に参加を促し、身体拘束をしないケアの重要性を学んでもらうよう取り組んでいます。玄関は夜間以外は施錠せず自由に出入りが出来るようにし、職員は見守りの強化に努めています。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束廃止宣言」を掲げてマニュアルを作成しており、職員は拘束をしないケアに努めている。ベッド上で立ち上がり転倒骨折して入院した利用者に対し、退院時ベッド柵を使用することを検討したが、床に布団を敷いて転倒を予防できるよう工夫し、這って移動することで転倒を予防できている。年間研修計画の中にも身体拘束防止等のテーマを取り入れ、利用者のことを自分の親に置き換えて考えるよう職員を教育している。また、言葉による拘束についても注意している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士が注意しあい、正しいケアが行われるよう努めている。研修等にも参加しケアの質の向上に努め、誤解を招くようなケアが無いように取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で司法書士の方をお招きし勉強会を開催したりして学ぶ機会を設けていますが、職員の理解度としては、まだまだである。必要時には、関係機関と連携を図り、活用して行くように努めます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとって説明をし納得していただいた上で契約している。改定時には前もって文書等で報告説明を行い同意を得るようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を利用しご家族からの意見・要望を伺い、また面会時にも声をかけるようにしています。ご家族からの意見・要望はその都度話し合い運営にいかしています。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、利用者の様子を伝えると共に、意見や要望を聞くように努めている。事業所への訪問が難しい家族には、「ぽかぽか通信」に手紙を添えて送付し報告している。また、アンケートを送付して、意見を出してもらえよう工夫をしている。利用者から日々の生活の中で意見や要望が出されることもあり、「県立美術館に行きたい」という要望に対して、家族の協力を得て外出を予定している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員と一緒に現場で業務しながら、職員とのコミュニケーションを図るよう強めています。また、代表者を交えた職員会を開催し意見や提案を聞ける機会を作っています。 (外部評価) 管理者は職員と一緒に日常業務を行う中で、職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。職員会議は代表者も参加して開催されるため、職員は直接意見を伝えることもできる。また、法人では研修参加や資格取得も奨励しており、研修計画を立て、職員の希望を聞いて参加ができるよう環境を整えている。昨年取り組まれた相互研修報告では、他事業所との比較に基づき様々な提案がなされ、運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格を獲得した際には、お祝い金の支給や職能給として給料の見直し改善を実施し、職員がやりがいをもって働きながら学べる環境づくりに努めています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を誰もが閲覧できるようにしており、希望に応じて個々に受講している。研修報告書を提出し全職員に伝達できるよう取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の主催する相互研修に参加し他の事業所との交流を図っている。参加した職員は研修内容を全職員に報告しサービスに活かしています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所の前にご本人とご家族と面談を実施し、困っている事や本人の思いや不安を汲み取れるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談をさせて頂き、ご家族の希望・不安に思う事 をじっくり聞き取るようにしています。入居後も機会を見 つけ声掛けを行うようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入居に至るまでの生活の状況を聞き取り、ご本人ご家族が 必要としている事を見極め、それに合ったサービスが提供 出来るよう努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者から教わることは多く、人生の先輩である尊敬の念 を忘れず、職員は利用者がお互いを助け合いながら生活出 来るよう見守り支援しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診や外出などご家族に協力をして頂きながら、利用 者をご家族と触れ合える機会を作っています。また、密に 連絡を取り、利用者さんの状況を報告しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用者は地元の方が多く地域の行事に参加すると、顔見知 りの方と再会され、昔話をされたりしている。散歩を兼ね てお墓参りに出掛けたりすると、昔を思い出され話が止ま らなくなる方もいらっしゃいます。 (外部評価) 入居時にセンター方式を活用して、馴染みの関係を聞いて 把握し、職員間で共有している。美容院など行き慣れた店 に行くことができるよう家族に協力を依頼している。地元 の町民運動会や敬老会、文化祭に出かけ、知人と出会う よう支援している。また、利用者同士が仲良くなり、互い の居室を行き来したり、定期的に訪問のある介護相談員と も新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれが出来る事を役割として、お互い協力しながら助け合い生活が送れるよう支援している。人間関係に配慮し、席替えを行ったり、職員が間に入る事でトラブルを防いでいます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院による退所者に対しては、電話で様子を伺ったり、場合によっては再入所の検討などを行っています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 契約前の面談時や入所後にもご本人とゆっくりと話せる時間を作っています。また、意思疎通の困難な方は、ご家族に話をお聞きしています。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から情報を収集し、生活歴や生活環境の把握に努めている。入居後も昼食後の時間やお茶の時間など、何気ない昔話の中から思いをくみ取るよう努めている。その際、利用者が思いを言い表しやすいよう声かけを工夫している。意向の把握が困難な利用者には、家族に聞いて理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談時にご本人・ご家族から話を聞き、それまで利用していた事業所からの情報の提供をお願いして、生活歴や生活環境等の把握に努めています。また、入所後も、ご本人と話が出来る時間を作っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんそれぞれの生活パターンを把握し、決して無理強いすることなく自分のペースで毎日を過ごして頂けるよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の実施状況を各担当者が毎月チェックし、状態の変化や気づきを記入し提出してもらっています。3ヶ月ごとのモニタリングや担当者会議にて問題点を話し合い、6ヶ月毎に介護計画を作成している。状態の変化時には、その都度、見直しを行っています。 (外部評価) 利用者や家族の意向を確認し、計画作成担当者が職員と話し合って介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族の面会時に書面を見せながら説明し承諾を得ている。利用者毎の担当者を決めて、毎月モニタリングを行い、6か月毎に定期的に介護計画を見直すほか、状態の変化があった場合にはその都度見直しをしている。また、サービス実施記録には介護計画実施状況が分かりやすく記録され、モニタリングに活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は今日の出来事と題し一日の様子を分かり易く記入し、別紙にてバイタル・食事量・水分量・排泄の状況が一目で分かるように記録しています。出勤時には、必ず目を通し情報が共有できるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や定期受診は、ご家族の都合を考慮し難しい場合にはホームの職員が対応している。また医師への詳しい状態報告が必要な場合には、職員がご家族と同行するようにしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月の介護相談員の訪問や美容師のボランティアによる散髪やご家族を招いての歌や舞踊の慰問公演等を開催しています。地元の職員が多くいる為、地域での行事の情報が得られるようになっていきます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医の月2回の往診と必要時に歯科医の往診を依頼して います、外科等の定期的な外科他の受診は、ご家族に協力 を頂きお願いしています。急変時には、協力医に報告し看 護師が付き添い、受診を行い適切な医療が受けられるよう 支援しています。 (外部評価) 入居前に利用者や家族に説明し、協力医をかかりつけ医と している。看護師2名(内1名は非常勤)が職員として勤 務しており、日常の健康管理を行っている。月2回協力医 の訪問診療があるほか、急変時にも24時間体制で対応でき る連携が取れている。また、歯科医の往診治療を受けるこ とも可能である。専門医の受診が必要な場合には家族が付 き添うことになっているが、困難な場合には看護師が同行 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 身体の異常や急変時には、看護師に報告・相談し指示を貰 うようにしています。ホーム看護師は24時間オンコール 体制をとっており、夜間の対応も可能となっています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、医療機関に情報を提供し、電話や面会など で状況を確認して家族と連絡を取りながら、早期退院向け て取り組んでいます。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重症化や終末期については契約時に説明し、看取りを希望 されるとなった場合には、ご本人・ご家族の意向を確認し 協力医の指示を仰ぎ看護師を中心に行うようになっていま す。当ユニットでは看取りの実施は無いが、ホームで出来 る事に限界があり戸惑いもある。 (外部評価) 「看取りに関する基本指針」を作成し、利用者や家族の要 望に応じて看取りを行っていく方針であり、入居時に意向 を確認している。今までに2名の看取りを経験しており、 管理者は利用者の状態によっては、必ずしも事業所での看 取りが最善ではないと感じる場合もあった。看取りは協力 医や看護師、家族、職員など関係者が話し合い、役割を分 担して取り組んでいる。また、看取り実施後には職員アン ケートを取って話し合い、管理者は今後の看取りに生かそ うとしている。	看取りの経験や振り返りが、職員の自信に繋がってい くよう、職員や関係者間で共有すると共に、勉強会 を重ねて実施するなどさらなる知識の向上や技術を習 得していくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、急変時には、看護師と連携し、素早く対応が出来るよう努めており、救命救急士による救命処置訓練を実施するなどしてます。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防署に協力いただき様々な想定での避難訓練を行っています。ご家族にも参加を頂き、意見等が伺える機会を設けています。また職員が地域の消防団に所属し連携を図っています。非常袋・飲料水・食料等の備蓄も準備しており、8月の大型台風の時には地域事務所の協力を得て、自主避難を行いました。 (外部評価) 年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。内1回は消防署の立ち会いがある。昨年の訓練では事業所が土砂災害危険区域に指定されていることが分かり、避難経路や避難方法を確認している。また、台風が襲来した際は実際に利用者と一緒に避難場所へ自主避難の経験があり、ピストン輸送で利用者を避難させたが、課題も明確になっている。事業所のある地区の消防団員をしている職員もおり、地区の防災訓練を事業所で実施するなど、協力関係を築いている。また、福祉避難所としての申し出を民生委員に伝えている。	事業所では土砂災害に備えるという新たな課題に直面し、台風の際には実際に利用者と一緒に避難場所へ避難を経験している。その際明らかになった問題点を行政など専門家にアドバイスをもらいながら職員間で検討し、事前の対策や速やかな避難ができるよう、訓練を重ねて実施したり安全に非難できる方法を見直したりすることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けや口調に気を付けて威圧的にならないように利用者が気持ちよく行動を起こして頂ける声掛けに努めています。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。「居室に入る際には必ずノックをする。トイレ介助時は、戸を閉めて行う。入浴介助は適宜同性介助で行う。」などの配慮をしている。利用者と呼ぶ時は、親しみを込めて名前と呼ぶ場合もあるが、過度な馴れ合いにならないよう気をつけている。また、利用者自身がしたいと思うことは、できないことでも頭から否定せず、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人がどうしたいのか？希望等を引き出せるような声かけに努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の日課に添って生活されているが、その日の状態やご本人のペースにあわせ、ご本人の思うように過ごせるよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には、洋服をご本人に選んで頂いたり、お化粧品をして出かけています。マニキュアを塗って差し上げると皆さん大変喜ばれます。2・3ヶ月おきに、ボランティアの美容師さんが訪問して下さっています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日に使う食材を切ったり、盛り付けなどをお願いしています。可能な方はご自分で配膳・下膳・後片付けをされており、車椅子の方は、洗った食器やお盆を拭いたり、それぞれが出来る事を役割として行って頂いています。 (外部評価) 専任の調理師が献立を作成し調理している。野菜の多くは事業所の畑で取れた新鮮な野菜を使用し、その他の食材は週2回利用者と一緒にスーパーに買い物に行っている。利用者は食材を切ったり食器を洗ったりするなど、できることを手伝っている。誕生日には一人ひとりに合わせた好みのメニューを料理しておやつも特別に注文し、利用者に喜ばれている。季節毎に特別メニューをつくったり、そうめん流しをしたりするなど、食事を楽めるよう支援している。また、ドライブなど遠出先で外食をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は個々の状態に合わせた量・形態で提供し、水分チェック表にて1日の水分摂取量が把握できるようにしています。お茶が苦手な方は、ジュースやコーヒーなどを提供し摂取して頂いています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の日課として口腔ケアの声掛けを行い、実施しています。また、義歯の方は就寝時に洗浄して頂いています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表で排泄を管理し、定期的な声掛け誘導を行い失敗のないよう支援しています。排泄時には、ご自分で出来る事はして頂き、職員は見守るようにしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。歩行が困難な場合でも立位がとれる利用者には、トイレで排泄できるよう介助している。入院中にオムツを使用していた利用者に対し、職員が誘導することで、トイレで排泄ができるようになったケースもある。夜間のみオムツを使用している利用者が若干名いるが、日中は紙パンツで過ごせるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく薬に頼らず、日中、身体を動かす運動を取り入れたり、繊維の多い食材を使った料理の提供や水分摂取に注意しながら自然排便が行えるように努めています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日の設定はあるがその日の状態に合わせて、日を変更したりしています。1人でゆっくりと、または気の合う人同士など利用者の希望に沿いながら支援しています。また同性介助にも気を付けています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夏季は週3回、冬季は週2回入浴できるよう支援している。利用者の状態に合わせて、適切な福祉用具を活用して湯船に浸かれるよう介助している。それが困難な利用者には、足浴をしながらシャワー浴をして温まれるよう工夫している。仲の良い利用者同士と一緒に入浴する場合もある。入浴を嫌う利用者には、時間や日を変えて入浴できるよう支援している。また、利用者の希望により、同性介助の対応もしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その日の状態や気分に合わせて、自由に居室等で休んで頂けるようにしています。廊下のソファでは気の合う人が集まり、お喋りをされたりしています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬の無いよう 職員間で確認しています。お薬の情報は利用者個人別にファイルしており、皆が確認できるようになっています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 炊事・洗濯・掃除等の利用者それぞれが得意としている事を把握し、役割として行って頂いています。外出の好きな方には買い物へ、読書の好きな方は、居室でゆっくり小説や週刊誌を読んで頂いたりしています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 週に2回買い物へ行ったり、初詣から始まり、雛飾り見学・ホテル見学・ソーメン流し・花火見学・イルミネーション見学などその時期に合わせた場所への外出の機会を作り、季節を感じて頂いています。ホームでの対応が難しい場合にはご家族に協力をお願いしています。 (外部評価) 初詣や桜、菜の花、菊など季節毎の花を見に出かけるなど、毎月1回は遠出できるよう支援している。歩行が困難な利用者も、車いすのまま利用できる福祉車両を活用して外出行事を楽しんでいる。松山へ椿まつりに出かけたり、昨年はポップサーカスの見物に出かけている。その他、つくし採りやそうめん流し、蛍祭り、広田ふるさとフェスタ等外出の機会を多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 何名かの利用者は少額の金額を本人が管理しています。買い物に出掛けた時に、必要な物を買って頂けるように支援しています。また、生活保護受給者のみ、事務所にて金銭管理を行っており、職員同行で買い物に行ったり出来るよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 状況に応じて電話や手紙でのやり取りが出来るよう支援しています。意思疎通の難しい方には、ホームからご家族に連絡し、面会をお願いしたりしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングからは外の景色が見え、天気や季節感が味わえるようになっており、窓から見える夕日はとてもきれいで見事である。ホーム内には利用者が作成したクラフトを貼ったり、外出時の写真等を貼ったりしています。 (外部評価) 共用空間にはオープンキッチンと丸いダイニングテーブル、掘りごたつのある畳の間がある。畳の間は、両ユニットで共有することができ、舞台としても活用されている。壁には、利用者と共に作成した季節毎のクラフト作品が飾られ、リビングに繋がるテラスからは、眼下に伊予灘を展望することができ、沈む夕日の眺めは絶景である。崖下には事業所の専任職員が耕作する広い畑があり、季節毎の野菜を利用者と共に栽培している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下にソファを置き、歩行訓練の合間にちょっと休憩したり、リビングでは円卓を囲みみんなの顔が見えるようにしています。各自が自由に好きな所でくつろげるようになっています	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスやお布団などを、居室に置いて頂いたり、仏壇なども持参して頂いています。また、利用者が毎月作成するカレンダーを貼ったり、貼り絵を飾ったりされています。ご家族とホーム行った米寿のお祝いの家族写真を飾っている方もいらっしゃいます。 (外部評価) 居室はベッド、テレビ、いす、オイルヒーターが備え付けられている。利用者がそれぞれ使い慣れた家具を持ち込んで配置し、個性的な空間となっている。また、ひ孫の成長過程がわかる家族カレンダーや利用者全員で作成した作品を飾るなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内至る所に手すりを設置し、バリアフリーになっている為、安心して歩行できるようになっています。また居室の表札を大きくし、迷わず自室への出入りが出来るよう配慮しています。	